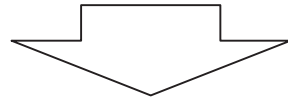


2. 市の広域的位置付け

1) 概況と課題

- ◆本市は、濃尾平野の北部、岐阜県の南部に位置する。また、中京都市圏の中心名古屋市へ30km、岐阜市へ8km 圏内に位置し、東海北陸自動車道・岐阜各務原インターチェンジを介して名古屋まで30分とアクセスに優れている。市域中央を、東西にJR高山本線、名鉄各務原線、国道21号が、南北に主要地方道江南関線が通り、基幹交通網を形成している。
- ◆着実に増加を続ける本市の人口。ただし、名古屋のベッドタウン*的な性格の強い可児市等に比べ、その伸びは低い。
- ◆人口増加を支える岐阜市及び県内他市町村からの転入、通勤（通学）流動も岐阜市とのつながりが主体
- ◆地区別では、最も転入者が多い地区は東部の鵜沼地区（ただし、岐阜市からの転入は他地区に比べ少ない）
- ◆県内各都市の中で最上位に位置する本市の財政力（県内の不交付団体は、平成20年度現在では本市、大垣市及び岐南町のみ）



広域的な位置付けからみた本市の都市づくり上の課題

- ◎本市は居住の場であると同時に従業の場としての役割を担っており、これまで築いてきた地域活力（財政力）の維持、一層の強化に向け、居住地として選ばれる魅力づくり（生活インフラ*の整備＋本市固有の歴史文化資源の活用など）が求められる。
- ◎同時に、財政力強化に直結する従業の場として機能強化に向け良好な居住環境と調和した新たな産業機能の立地誘導等が求められる。

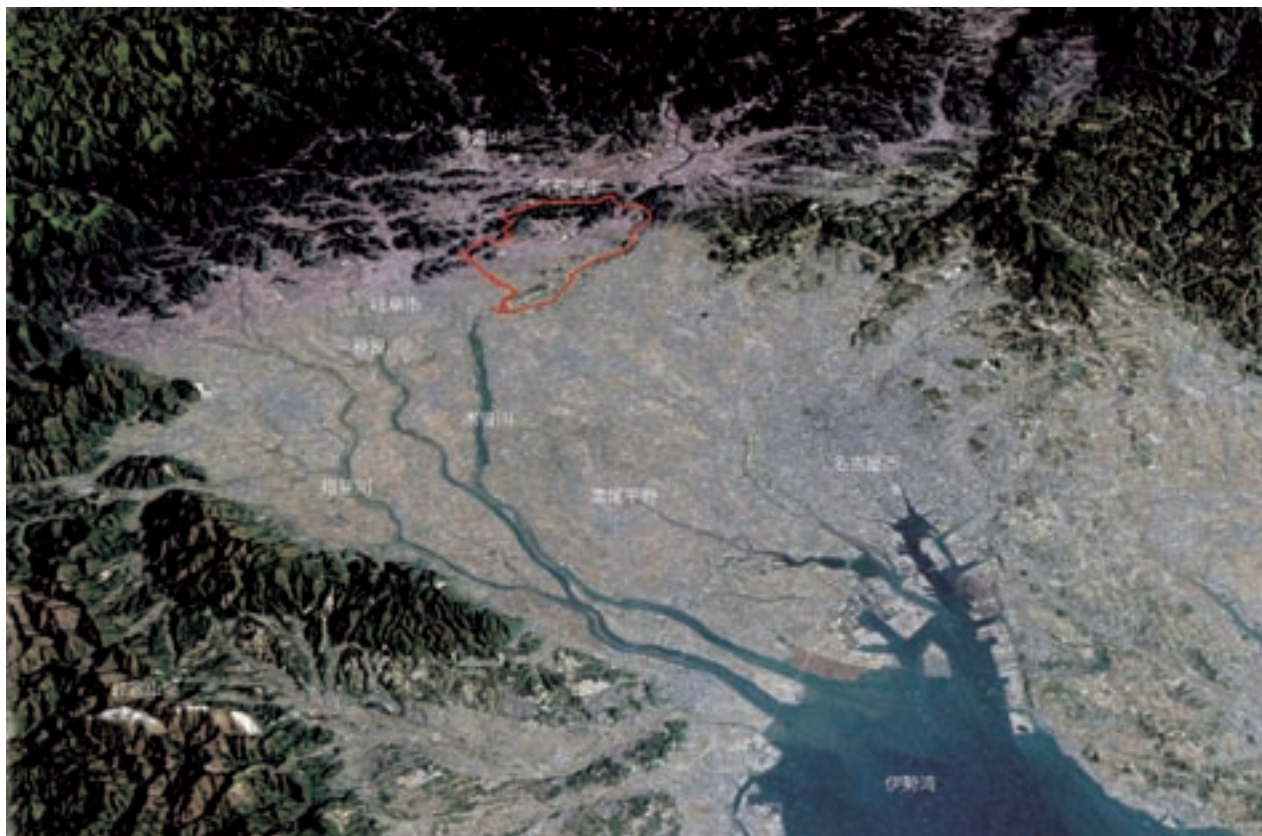
※ベッドタウン：大都市郊外に立地する住宅都市。都心部に通勤する人たちが寝るためだけに帰ってくる街であるということからベッドタウンと呼ばれる。

※生活インフラ：ここでは、都市基盤施設のうち、生活道路や身近な公園、下水道など市民生活に密接に関わりを持つ公共施設をさす。

2) 地形

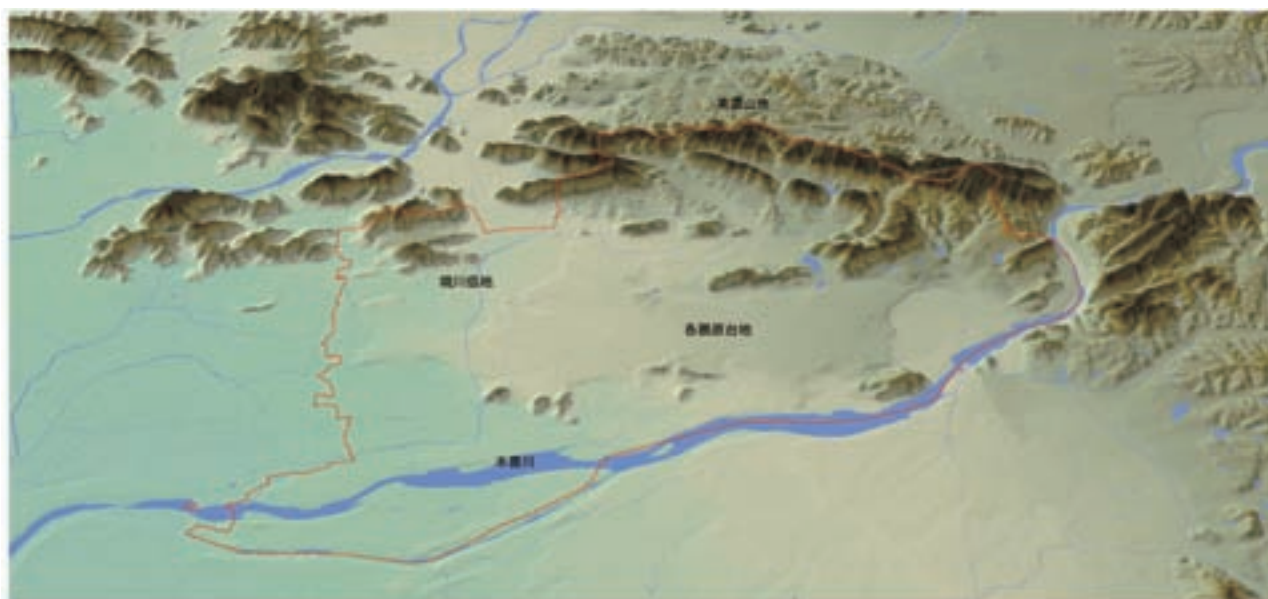
- 本市の地形的な特徴としては、市南西部においては境川低地や木曽川周辺の低地が広がっている。市中央部においては各務原台地となっており、東西にわたって平坦な地形が広がっている。市北東部においては美濃山地となっており、急峻な地形となっている

濃尾平野と市の位置



(出典：各務原市第2次新総合計画)

市の地形

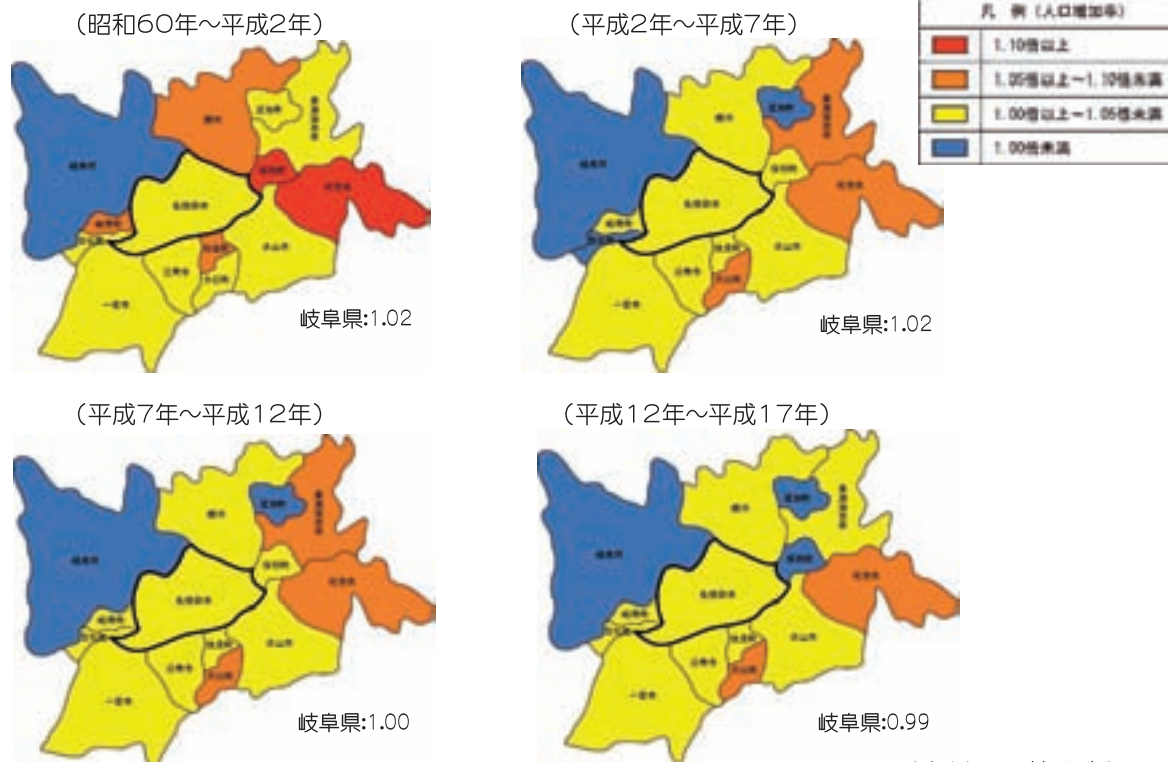


(出典：水と緑の回廊計画)

3) 人口動向

【本市及び周辺市町の人口動向】

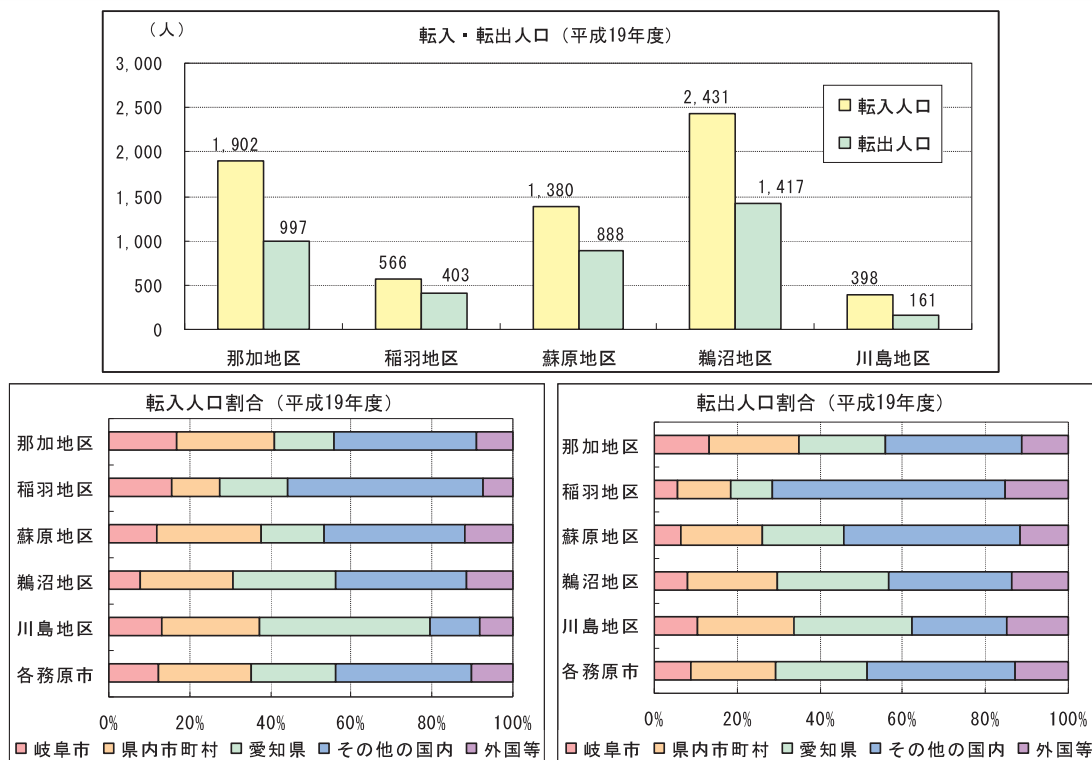
- ・ 県や隣接する岐阜市の人口が減少する一方、本市では着実に人口が増加を続ける
⇒人口減少社会の到来が周辺都市に比べやや遅く、当面は増加が続くと予想⇒安定した都市



(資料：国勢調査)

【本市内の人口動向(転入・転出動向)】

- ・ 人口増加の要因である岐阜市からの転入
- ・ 最も転入が多い地区は、本市東部の鵜沼地区
- ・ 鵜沼地区、川島地区は愛知県（名古屋市等）からの転入の受け皿としての役割を担う

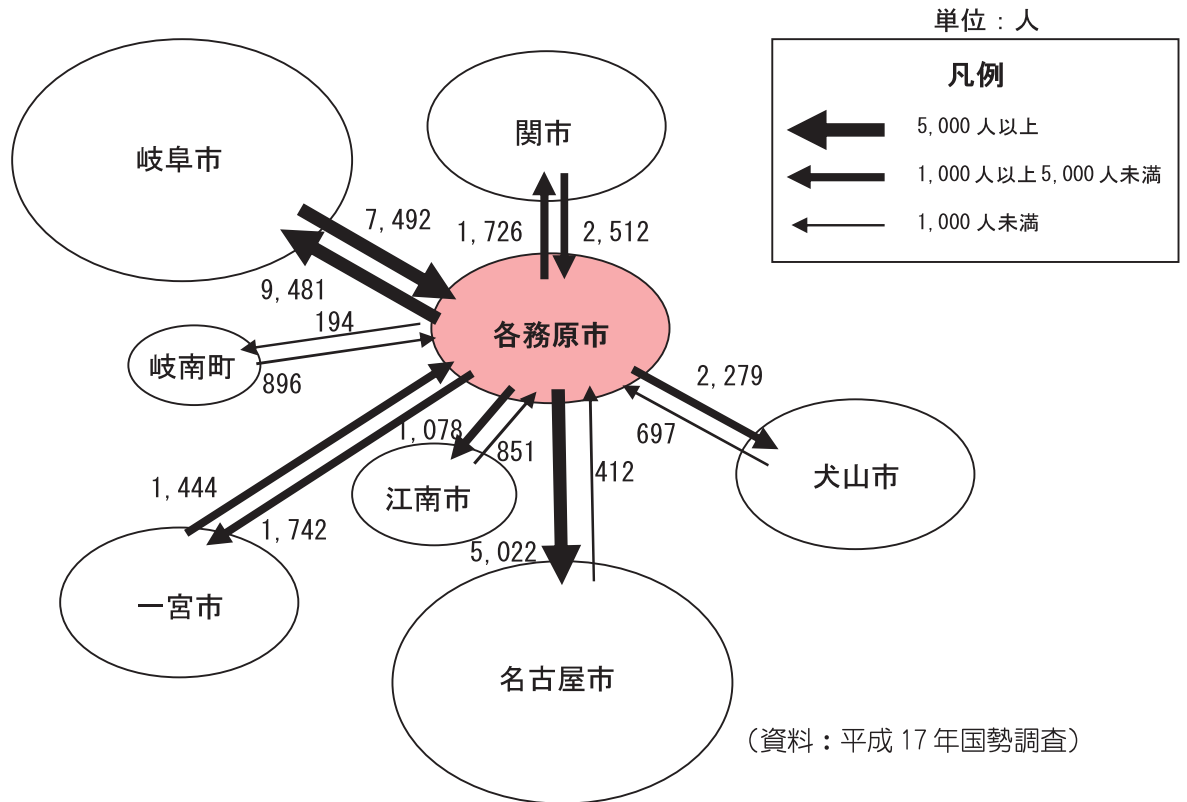


(資料：各務原市)

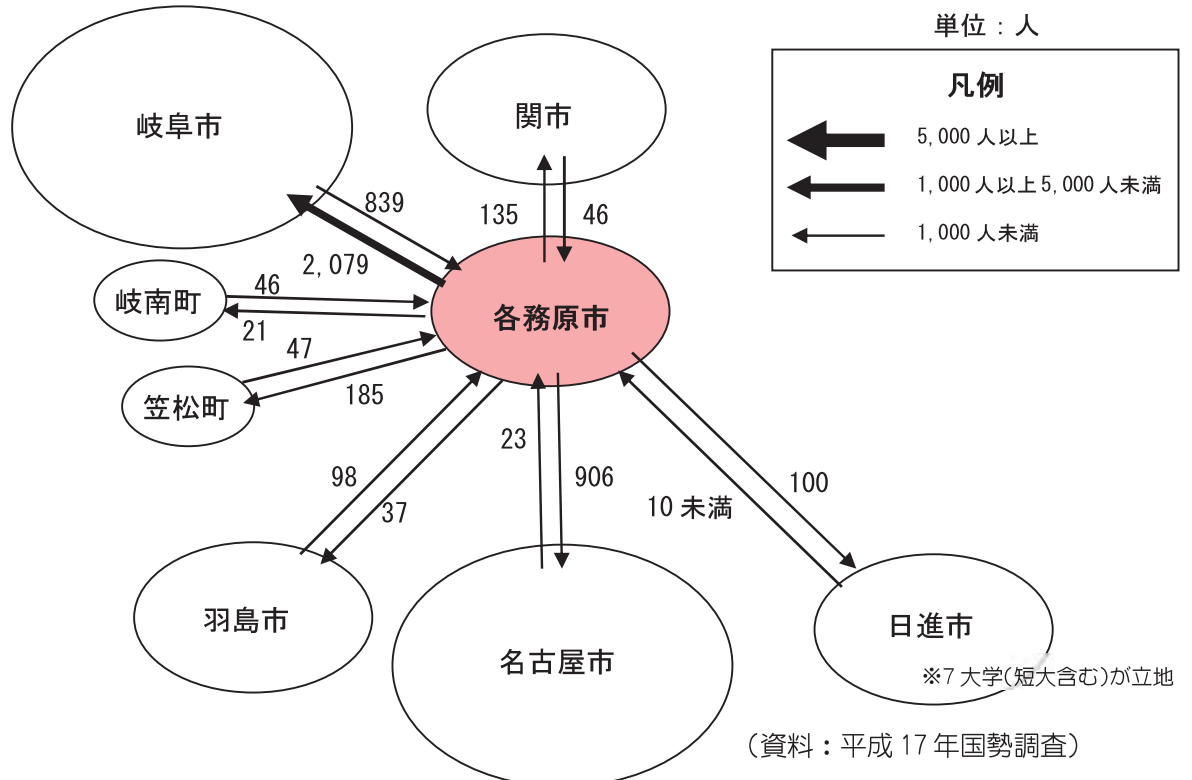
【本市の通勤・通学状況】

・通勤、通学とも岐阜市との結びつきが第一、名古屋市が第二である

本市における通勤者の流入先及び流出先(主な都市)



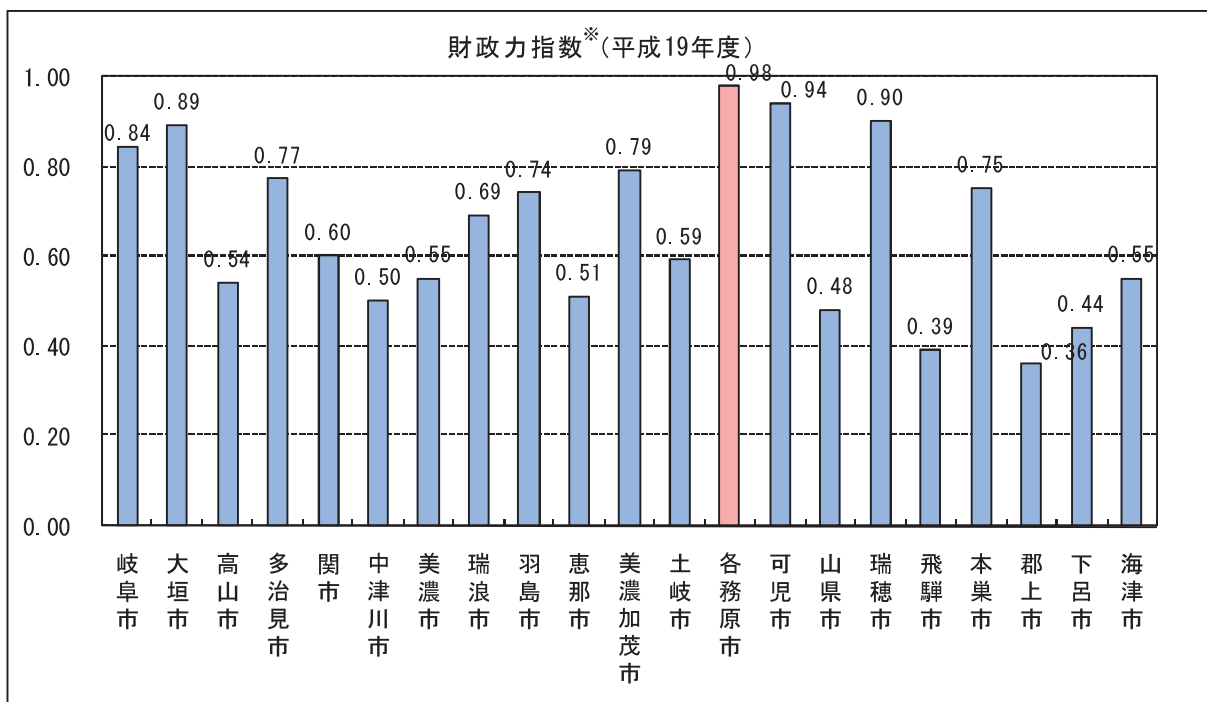
本市における通学者の流入先及び流出先(主な都市)



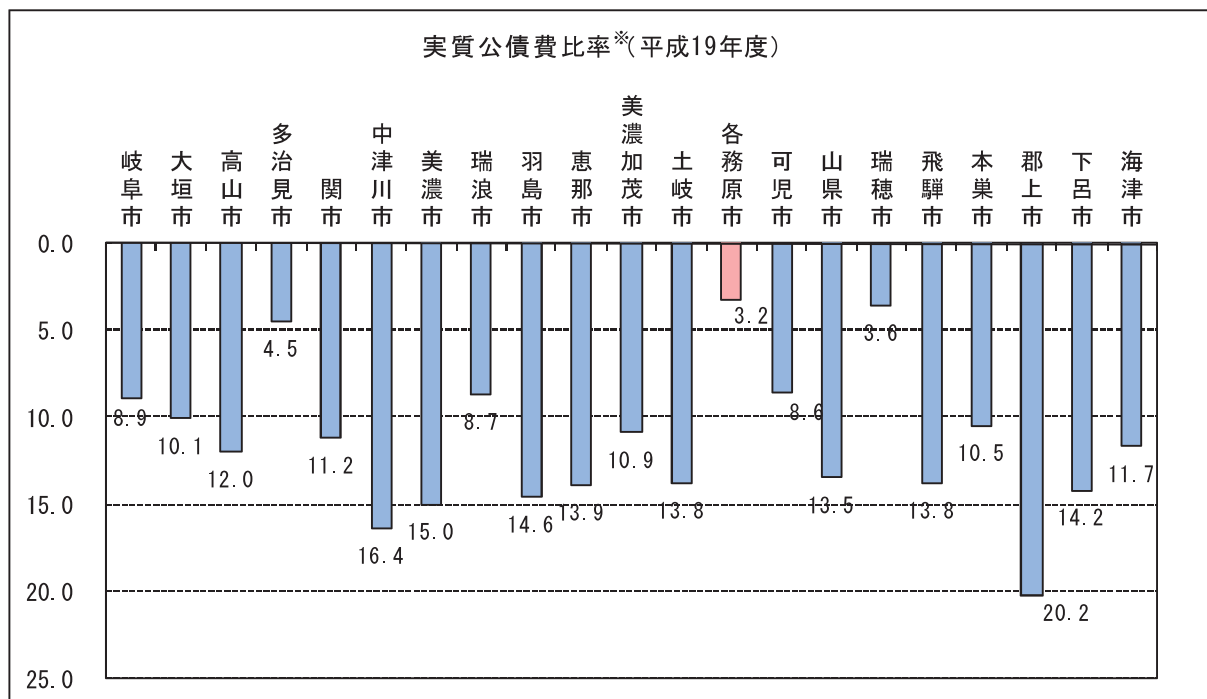
4) 財政状況

【本市及び県下全市の財政状況】

- ・県内各都市の中で最上位に位置する本市の財政力
- ・県内の不交付団体※は、平成20年度現在では本市、大垣市及び岐阜南町のみである
⇒周辺都市にはない安定した財政（都市経営）基盤を有する本市



(資料：平成19年度市町村財政の状況)



(資料：平成19年度地方公共団体財政健全化に基づく健全化判断比率)

※財政力指数：地方公共団体の財政力の強弱を示す指数で、1に近い(あるいは1を超える)ほど財政に余裕があるとされている。

※実質公債費比率：地方債の償還金及びこれに準ずる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示す比率。

※不交付団体：基準財政需要額に対して基準財政収入額が超過しているとされた地方公共団体に対しては地方交付税は交付されない。このような地方公共団体を「不交付団体」という。